

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201217		
法人名	株式会社 三重互助サービス		
事業所名	グループホームさるびあ新正		
所在地	三重県四日市市新正5丁目2-6		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町提出日	平成 25年 3月 8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470201217-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○日頃、施設内で過ごす事が多いため、少しの時間でも散歩など外に出る時間を設け、気分転換できる様に心掛けている。また外出企画(買い物や外食等)も定期的に入所様と考えて外出を行っている。

○ホール内の壁紙や作品作りを職員と入所者様と一緒に作り、作品を飾り季節感を感じていただいている。

○自治会との連携も取れており、地域のイベントに積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

既設の建物を利用した事業所のため、設計上・構造上の無理があり、窓が少なく全体的にやや狭いが、使いやすいようさまざまな工夫を凝らしている。近隣は会社・工場・アパート・マンション等が多く地域交流がやりにくいのが、自治会に参加し地域のイベントにはその都度参加したり、できるだけ散歩に出かけて地域の人たちと関わる等、地域に密着する努力を重ねている。また家族に対しては、毎月日常の様子や診療結果等を知らせており、利用者や家族の絆を絶やさない工夫を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を当事業所なりに理解し作り上げている。ミーティングの際に全員で読み上げ共有している。	利用者への理念は「地域交流・貢献、家族交流、入所者の尊厳」としており、別に職員への支援規範として7項目を掲げ、それをミーティングの時に読みあい確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の周辺は工場が多く、民家が少ない環境である。自治会に加入し、自治会長・民生委員に地域のイベントの情報を聞いて参加している。	事業所の周辺はアパート・マンションが多く、住民との交流は少ないが、自治会主催の盆踊りや祭り等イベントが年に3～4回あり、それには利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社外・社内研修で認知症に関する知識を身につけている。そこで学んだことを運営推進会議で認知症の勉強会を行い、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会・介護相談員・傾聴同好会・市介護高齢福祉課職員・包括支援センター職員・入居者様の家族様と多くの方が出席している。事業所の動向や議題を決めて話し合いをしている。	出席者は決った人になりがちであるが、2カ月毎に定期的開催している。近くに住む家族にはその都度連絡しているが、出席者は3人程度である。議題に困ることもあるが、会議ではさまざまな意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員が事業所に来所することは少ないが、定期的に市役所に訪問し、意見交換を行い関係を築いている。	分からないことや事故報告があれば、その都度訪問して話し合っている。時にはぶらっと訪問しては、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、拘束が必要な入居者はいないが、居住が2階なために安全対策として階段の入り口を紐で止めている。ヒヤリハットの事例などにつなげての話し合いなどを会議時にしている。	何が拘束になるのかについて、職員とよく話し合っており、実際の拘束より、言葉づかいで拘束にならないよう注意している。また、ヒヤリハットのノートには転倒や薬の飲み忘れなどの事例が記載されており、対策を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや会議などで虐待防止について意見交換を行っている。常に虐待が無いように注意を払い、防止をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度を利用している入居者様が居る為、職員はある程度の理解はしている。今後、権利擁護の社外研修を受け更に理解を深める予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に説明を行っている。契約に関しての苦情はなくスムーズに契約を行えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者様の担当者を決め、毎月最低2回は往診の結果などを報告したり、また運営推進会議に出席して頂き意見交換をしている。年1回の家族会を開催し、様々な意見交換を行っている。	遠方に住む家族もいるので、面会の多少は家族の事情によって異なる。家族会を行っており、その場では意見よりも感謝の言葉が多く出ている。中には外出の機会を多くしてほしいとの要望もあり、できるだけ外出する機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主にミーティング時に意見交換をしている。また、申し送り時など日常的に話し合いを持ちたり、個別で話し合いの時間を設け、話しやすい環境づくりをしている。	職員の会議は、月1回のミーティング、毎日の申し送りの他、不定期で勉強会が行われ、社外研修等にも取り組んでいる。また職員から個別に意見を聞くようにしている。意見交換は活発になされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・職員との打ち合わせをこまめに行い、職員個々の勤務状況を把握し、各自向上心を持って仕事に取り組めるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングでの話し合いや、社内・社外研修に参加する事でレベルアップを図っている。また他事業所との意見交換を行い、それを職員に伝え当事業所の問題を再確認し、全員で直す取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や、研修に参加したときに意見交換を行っている。また他事業所に訪問することも多くなってきているので、良いと思ったことは取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面談を行い、生活状況や本人様の希望を聞いて安心して入居できるように努めている。入居時には全職員が状況を把握し、不安を少しでも取り除き入居に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や見学に来ていただいた時に、本人様や家族様の希望を聞いている。入居される際に、本人様を家族様と共に支援していくことを伝え信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の状況・意見を把握し、他のサービスが必要と判断した場合は、本人様・家族様と話し合いを行いサービス利用の助言等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩として、物事の見方、考え方を学びながら共に楽しむ事を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様へより良い支援が行えるように、行事の参加や報告を行っている。訪問時にも十分なコミュニケーションを取っており、協力関係が円滑に行える様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の中には同級生の訪問がある方もいるので継続してもらえるように支援している。回想法を用いたり、散歩や買い物の中での出会いも大切にしている。	以前は自宅近辺へドライブしたり、デイサービスに来る知人と交流したこともあったが、最近では途絶えがちである。家族の中には近隣の来訪を拒む人もあり、どうすべきか思索している。	地域密着サービスのあり方を考慮し、入居前の関係を断ち切ることがないようにするにはどうするか、一層の検討をされるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の情報や特徴を職員間で共有し、一人ひとりにあった支援を行っている。入居者様が孤立しないように、また入居者様同士の関係が上手くいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も必ず様子を伺いに行っている。また、担当者への情報提供も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、日勤者が出勤していない職員にメールでその日の特記事項を送っている。職員全員が入居者様一人ひとりの情報は必ず把握している体制をとっている。	利用者の思いや意向が判明した場合、それを不在の職員にも認識してもらうようメールで連絡する他、連絡ノートにも記録し見落としがないようにして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルに全ての情報を載せており、職員が共有することでより良い支援を行える様にしている。新しい情報は連絡ノートやメールの報告により共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴や、正確・特徴は勿論のこと、日常の過ごし方をよく観察し、個別記録に記入することで現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回、モニタリングを行いその結果をミーティングにかけ、3ヶ月毎の介護計画書の見直しに反映している。計画作成担当者は、家族・医師の意見も聴き、作成している。	モニタリングは毎週職員で協議しながら、利用者全員について行っている。これをもとにケアプランは3カ月毎に順次見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は状況が把握出来るような記入方法を指示している。気づいたこと・特変はあった場合は細かく記入し、職員が目を通し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院等、本人様・家族様の状況に応じ、臨機応変に対応している。また季節に応じた企画や、散髪などを行い要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な傾聴ボランティアの訪問があり、本人様の希望を聞き取ることで、より良い支援が出来るように努めている。また、音楽療法ボランティアの訪問もあり参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医がかかりつけ医になる了承を得ている。毎日、バイタル表をFAXしている。月2回の往診や、夜間を含め24時間対応で変化に備えている。	協力医が利用者全員の主治医となることを入居契約時に家族に説明し、理解と署名を得ている。協力医以外では眼科への通院があり、職員が対応している。また体調については法人事務局の看護師がいつでも相談に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師や、社内に看護師の資格をもっている者がいるため、入居者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人様に関する情報提供を行い、家族様と連携している。お見舞いに行き回復状態を把握し、退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の方針(医療行為・車椅子での対応が必要な場合は退所)の了承を得ている。重度化してきた場合には早期から、主治医・家族様を含め今後の方針について話し合いをしている。	家族には、重度化した場合は基本的に事業所では対応できないと説明しており、入院した時は1ヶ月後には退所を求めるなどを、家族と話し合いのもと決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状態等については日々の申し送りやミーティングを通じて把握している。急変が起きた場合の対処方法も日々話し合いを行い緊急対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、避難場所も確認はしている。夜間を想定した避難訓練や机上での訓練も行い、全職員が避難に関して把握している。	防災訓練は12月と本年4月に実施した。火災・地震・夜間等を想定した訓練をしている。また、避難所までの道筋は確認している。スプリンクラーは本年設置したが、津波対策・救命救急訓練等はしていない。	防災訓練を着実にやっているが、どのような災害に遭遇するか分からないので、実施していない事項を含め、今後とも訓練内容をいっそう充実されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を傷つけないように、プライバシーを損ねない声掛けや対応を基本としている。主に排泄・入浴介助には人格を尊重し、声掛けやケアに気を付け支援を行っている。	利用者に対する声かけや、利用者の服装・整容にはいつも注意をしている。また利用者の尊厳やプライバシー保護には、ミーティングや申し送りのときに注意し合ったり、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせた支援を行い、表情の読み取りや自己決定ができる等工夫している。意思疎通ができない方への対応も考慮し、一人の職員で上手く行かない場合は交代を行う等支援を行い、職員間の連携も取れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、強制するのではなく本人様の希望や気持ち、体調に考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時など個々のオシャレを楽しんでもらえるように心掛けている。出来る方はネイルアートなどを行い、外出時などオシャレして出掛けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯と汁物は事業所で作るが副食は給食センターに委託している。出来る入所者様には盛り付けや食器洗いなどを一緒に行っている。昼食作りの企画時には入所者様と相談して作っている。	昼・夕食は法人運営の給食センターから副食が運ばれ、朝食は職員が全て調理している。4名の利用者が盛り付けや洗いを手伝っている。また、月2回は事業所で手作りし、月1回は外食している。職員は弁当を持参し、一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは給食センターで管理され、水分摂取量はバイタルチェック表で管理している。1日1600ccを基準に確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの歯磨きやうがいを支援している。義歯は就寝前に洗浄し、歯磨きやうがいも拒否される方を含め食事の最後に水分を多く取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、一人ひとりの排泄パターンによる声掛け誘導で自立支援を行っている。排泄チェック表を確認し、尿意の無い方も声掛けを行い自立支援を促している。チェック表は体調管理にも役立っている。	トイレ自立の人とリハビリパンツ使用の人は半々である。一部介助を要する人、時には便失禁する人もあるが、その介助は人目につかないよう注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝牛乳を飲んだり、定期的におやつでヨーグルトを召し上がっていただいている。また体操に参加してもらうことで運動不足も解消している。個々の排泄を毎日把握し、対処方法も主治医と相談し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表を作り、一人ひとり体調等確認しながら午前中に入浴を行っている。拒否される方も見えるので職員交代で声掛けを行い入浴を支援している。毎朝下洗浄を行い、下着・衣類を新しいものを着ている。	各自、週2～3回は入浴できるようローテーションを組んでいる。事業所の浴室は一人用で狭いので、階下のデイサービスの浴室を利用する場合もある。失禁した人はその都度入浴してもらい、拒否する人には時間をかけて促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調・気分・表情・希望等を考慮し、安眠できるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬準備は必ず二人で行い、服薬時は職員間で声掛けを行い服薬するようにしている。最後まで服薬したか見守るように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様と相談しながら企画を計画している。企画のことや回想法を用いて、生活に活力が出るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛け少しでも季節感を感じられるように支援している。買い物・外食・地域のイベントなどで外出する支援を行っている。	天気がよければ周囲を約30分散歩している。また、事業所で必要な品物を買いに、同行できる利用者4～5人と出かけている。季節によって花見、紅葉、花火等を見にドライブに出かけている。地域のイベントにはその都度参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者様が家族様からお小遣いを預かり、外出時等に自分の財布から支払いができる様に支援している。使ったお金の報告は、毎月請求書と一緒に小遣い帳のコピーと領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状・暑中見舞いのハガキを家族様に出している。電話は希望があれば、できる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住居が2回となり、屋外との接点が少ない為なるべく季節感を感じてもらえるように、季節に応じた壁紙等を飾り、明るく落ち着いた空間で過ごしていただけるようにしている。	昼間は皆が食堂兼ホールに集まり、レクリエーションを楽しんだり、思い思いで貼り絵・習字・手芸品づくり等をしている。既設の建物を流用した事業所のため、窓がなくやや狭いが有効に活用できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが狭い為、台所のテーブルを使ったり、居室ではソファを置いたり、レクリエーションで作った作品や写真等を飾り、落ち着いた環境で過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒防止の為にも床に物を直接置かずベッドと衣装ケース程度のすっきりした空間にしている。家族様との写真や事業所で作った作品を飾ったりと明るく整理整頓には心掛けている。	ベッド、ソファ、エアコンは事業所が設置し、利用者はそれぞれの品を持ち込んでいる。仏壇を置いている人がいたり、壁に手作りの手芸品を飾っている人もいる。居室にはTV配線がないが、特に要望は出ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の各所に手摺りを取り付けたり、トイレ等にはカーテンで仕切りプライバシーを確保したり、安全を確保しながら自立した生活が送れる様に工夫している。		